

「ヤイロチョウ営巣発見80周年巡回パネル展」

OJI PAPER LIBRARYにおいて、ヤイロチョウ営巣発見80周年を記念した巡回パネル展を開催中です。
会期:2017年12月22日(金)まで

◆ヤイロチョウとは

ヤイロチョウは体長18～20cmほどの渡り鳥で、“八色鳥”とも書くように、複数の体色を持つ美しい鳥です。日本には春から初夏にかけて飛来。九州、四国などの森で繁殖した後、秋にタイやボルネオ方面へ渡り、冬を越すといわれています。

まだ詳しい生態は分かっておらず、環境省レッドリストでは、絶滅危惧ⅠB類(近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)に指定されています。



公益社団法人
生態系トラスト協会提供

◆高知県とヤイロチョウ

1937年(昭和12年)、高知県内の山林でヤイロチョウの営巣地が初めて確認されました。現在は、高知県の県鳥および四万十町の町鳥にも指定されており、生息環境の保全活動に力を入れています。

高知県にある王子ホールディングス^{こやがうち}木屋ヶ内山林にも、毎年、ヤイロチョウが飛来・営巣していることが判明し、2016年8月、公益社団法人生態系トラスト協会と「ヤイロチョウ保護協定」を締結。王子グループも保全活動に参加しています。



◆営巣発見80周年

今年はヤイロチョウの営巣が発見されて80周年となる節目の年です。それを記念して、5月の高知県庁を皮切りに、四万十町役場、高知空港などで巡回パネル展を実施。そして今回、ここOJI PAPER LIBRARYでもご紹介の運びとなりました。

子育てを中心に、ヤイロチョウの知られざる生態の一部をご紹介します。どうぞご覧ください。